

# 福岡工業大学 学術機関リポジトリ

## 令和3年度「授業アンケート（期末）」の実施総括

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-09-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 釘宮, 千裕 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11478/00001726">http://hdl.handle.net/11478/00001726</a>

# 令和3年度「授業アンケート（期末）」の実施総括

釘 宮 千 裕 (FD推進室)

令和3年度の授業アンケート(前期末・後期末)について、実施概要、回答率、回答促進のための施策などを総括したい。授業アンケート(期末)の結果は、教育点検活動において、全学、学部・学科、授業そして学生レベルでの評価の根拠として活用されており、その有効性を高めるためにもより多くの学生の真摯な回答を集めることが求められる。しかしながら、授業アンケートに対する関心が低い学生や学科も一定数見受けられ、継続して働きかけが必要な状況にある。今年度は、学生・教員が授業アンケートを通じたアセスメント活動を我が事として捉え、積極的に取り組む風土を醸成したいという想いのもと、回答促進のための施策を行った。

## 1. 実施概要

### 1.1 目的

本学における授業アンケートの主な目的は、①学生の声を次年度の授業・カリキュラム改善に役立てること、②学生の成長度の総括的評価を行うこと、③学生自身が自己の学びの姿勢を振り返り更なる成長に向けて活かすことの3点である。また、学生の意見や評価は次期履修予定者の参考にもなっている。

## 2. 回答促進施策

### 2.1 教員インタビュー

授業アンケートの回答率を高めるために、まずは学生に回答の呼びかけを行う教員自身の工夫や気づきのTipsを集めることとした。それらを全学に共有することを目的として、前期授業アンケート開始前に5名の教員にインタビューを実施した。協力いただいた5名の教員は、令和2年度の授業アンケートにて、回答率が高かった科目を担当し

ていた教員であり、学生の意見を集めるために様々な工夫を行っていた。設問は3問あり、設問1(授業アンケートの実施目的をどのように捉え、学生に伝えていますか。)設問2(回答率を高める為に工夫していることはありますか。)設問3(学生コメントから得た気づきはありますか。)について回答を得た。

設問1では、学生自身が授業の主体であり、より良い授業をつくるためにも授業アンケートを通して意見や要望を伝えることは、非常に大切なことであると学生に認識させる呼びかけが並んだ。設問2では、回答率を高めるための工夫として、授業時間内で回答時間を設けたり、未回答の学生に掲示を発信し回答を促したりしているなどの回答があった。

上記のインタビュー内容はFD速報として全学に発信し、授業アンケートに対する教員の取り組み意識を一層高めることに繋がったと捉えている。(FD速報は別紙参照)

### 2.2 回答低調層へのアプローチ

前期授業アンケート終了後、回答の詳細を分析すると、学年が上がるにつれて履修授業全てに回答する「100%回答」の学生が減少する傾向があることがわかった。また、1年生では60%超の学生が、全体では40%超の学生が、履修授業に対して90~100%回答していることも判明した。さらに、履修授業全てに未回答の「0%回答」の学生は全体で839名(23%)おり、回答率向上のためには、この層を含む回答低調層に対する効果的なアプローチを行うことが必要であるとの結論に至った。(表1参照)

上述した回答低調層を「履修授業数に対する回答率が50%未満の学生層」と定義し、後期授業ア

【表 1 前期 履修授業数に対する学年別の回答率とその割合】

学年	履修授業数に対する回答率 (%)											合計 (名)
	0%～ (名)	10%～ (名)	20%～ (名)	30%～ (名)	40%～ (名)	50%～ (名)	60%～ (名)	70%～ (名)	80%～ (名)	90%～ (名)	100%～ (名)	
1年生	179	57	48	54	20	19	21	16	17	13	676	1107
2年生	237	103	106	66	22	28	17	8	13	396	996	
3年生	355	139	112	60	31	20	17	10	11	281	1036	
4年生	289	17	32	15	4	26	7	0	0	102	492	
合計 (名)	1060	316	298	195	77	93	62	34	41	1455	3631	

※うち0%回答839名

※うち100%回答1398名

学年	履修授業数に対する回答率 (%) の割合											合計 (%)
	0%～	10%～	20%～	30%～	40%～	50%～	60%～	70%～	80%～	90%～	100%～	
1年生	16.17%	5.15%	4.34%	4.88%	1.81%	1.72%	1.90%	1.45%	1.54%	61.07%	100.00%	
2年生	23.80%	10.34%	10.64%	6.63%	2.21%	2.81%	1.71%	0.80%	1.31%	39.76%	100.00%	
3年生	34.27%	13.42%	10.81%	5.79%	2.99%	1.93%	1.64%	0.97%	1.06%	27.12%	100.00%	
4年生	58.74%	3.46%	6.50%	3.05%	0.81%	5.28%	1.42%	0.00%	0.00%	20.73%	100.00%	
合計 (%)	29.19%	8.70%	8.21%	5.37%	2.12%	2.56%	1.71%	0.94%	1.13%	40.07%	100.00%	

※履修授業数が 0 の学生 596 名を除いた人数であるため、全学の学生数とは一致しない。

差出人	FD推進室
カテゴリ	お知らせ
件名	❶ 要確認：授業アンケート回答について
本文	<p>授業アンケートの回答が少ない学生の皆さんへ</p> <p>1月20日(木)まで後期授業アンケートの回答期間です。下記3つの授業アンケートの目的を理解し、多くの授業に回答してください。</p> <p>①皆さんが履修した科目でどのような力を身に付けたと感じたか、授業の振り返りを行い、自身の成長に活用してもらう。                  ②教員に皆さんの声を届け、大学の授業改善に活用する。                  ③次年度履修する学生に履修のアドバイスを送り、参考にしてもらうことでより良い学びに繋げる。</p> <p>特に①にあるように、授業アンケートは皆さん自身の学びの姿勢を振り返る大切な機会です。皆さんの回答有無は確認していますが、回答内容は匿名であるため、安心して回答してください。</p> <p>本掲示と入れ違いでアンケート回答を完了している場合は何卒ご容赦ください。</p> <p>お問合せは下記まで                  場所：FD推進室E棟3階 電話：092-606-7370 メール：o-fd@fit.ac.jp</p>

【図 1 後期 回答低調学生への myFIT 掲示】

アンケートでは、回答期間を通じて 2 回、個別に myFIT を通じて掲示を発信した。図 1 の通り、学生目線で理解しやすいように授業アンケートの目的を 3 点伝えた上で、授業アンケートの回答内容は匿名であるため安心して回答してほしいという主旨の呼びかけを行った。結果、後期の「0%回答」学生は全体で 963 名（28%）であった。この人数は、回答低調層に絞って呼びかけるアプローチを行っていない前期よりも多くなっているが、例年後期の方が前期よりも回答率が低いことを考えると、効果が無かったと捉えるには時期尚早であるため、本取組みは次年度も実施し、経年での変化

を確認したい。

### 2.3 回答時間の設定

先の教員インタビューにおいて「学生たちの声を吸い上げることは、直接的な授業改善に繋がるものもそうでないものも、彼らの考えを理解するために大切であり、回答時間を取ることは無駄ではないと考えている」との回答があった。また、他大学においても授業時間内に回答時間を設けることで回答促進を図る事例が複数確認されたため、本学でも効果が期待されると考え、教員には可能な限り授業時間に回答時間を設定することを依頼

## ■ 授業アンケートの目的

0

- ① 皆さんが履修した科目でどのような力を身に付けたと感じたか、授業の振り返りを行い、自身の成長に活用してもらう。
- ② 教員に皆さんの声を届け、大学の授業改善に活用する。
- ③ 次年度履修する学生に履修のアドバイスを送り、参考にしてもらうことでより良い学びに繋げる。

Copyright© Fukuoka Institute of Technology

FIT Fukuoka Institute of Technology  
福岡工業大学  
For all the students

## ■ 設問4・5 回答の注意点

1

授業のシラバスで「修得する知識・能力 (DP)」と「達成目標」を確認の上、回答しましょう

(例)

可能であれば、本スライドのあとに該当授業のシラバスを投影してください。  
※スライド使用時は本枠を削除ください※

Copyright© Fukuoka Institute of Technology

FIT Fukuoka Institute of Technology  
福岡工業大学  
For all the students

【図 2 授業アンケート回答時の注意点スライド (抜粋)】

した。

また、授業内で適宜投影してもらうスライド資料(図2)では、授業アンケートの目的や、当該科目のシラバスを参照しながら目標・達成度を振り返るように学生に指示をした。

### 3. 回答率

#### 【前期】

対象授業数：750 授業

回答率：53.9% (前年同期 46.5%)

#### 【後期】

対象授業数：682 授業

回答率：45.3% (前年同期 34.1%)

前期、後期ともに平成22年度以来最も高い回答率を記録した。学生への声掛けや授業時間内での回答時間を確保する教員が増加した結果と思われる。

### 3.1 学科別回答率内訳

学科別で回答率をみると、前期では最高学科64%に対して最低学科では34.4%と29.6ポイント差、後期では最高61.1%に対して最低28.2%と32.8ポイント差であった。学科によっては授業内での回答時間を積極的に設けるところがある一方、教員コメントの入力を含め授業アンケートに関心が低い学科も見受けられ、全学的な取り組み意識

の醸成が必要である。

【表 2 学部学科別回答率】  
(H29～R3 前後期)

学部名	R3後期	R3前期	R2後期	R2前期	R1後期	R1前期	H30後期	H30前期	H29後期	H29前期
電子情報工学科	45.9%	63.5%	33.8%	41.0%	38.7%	64.9%	32.7%	49.4%	38.0%	47.3%
生命環境化学科	52.3%	55.9%	49.7%	64.7%	34.1%	38.4%	23.3%	32.1%	21.4%	37.7%
知能機械工学科	32.9%	39.4%	34.4%	46.2%	29.7%	41.7%	29.2%	43.2%	42.6%	58.1%
電気工学科	51.7%	50.4%	41.8%	55.6%	40.7%	61.2%	24.5%	44.8%	34.8%	31.2%
工学部計	45.3%	51.8%	39.7%	51.9%	35.4%	51.0%	27.5%	42.5%	34.7%	44.0%
情報工学科	36.7%	49.1%	24.4%	41.8%	22.8%	41.8%	26.2%	36.6%	21.6%	34.2%
情報通信工学科	38.1%	54.2%	29.8%	36.5%	31.3%	50.4%	38.8%	50.9%	34.6%	47.4%
情報システム工学科	44.1%	50.4%	17.1%	31.2%	32.0%	54.0%	33.0%	65.8%	36.3%	51.5%
システムマネジメント学科	28.2%	34.4%	19.3%	29.3%	18.5%	35.8%	21.8%	32.5%	20.8%	44.5%
情報工学部計	37.4%	48.1%	23.1%	36.1%	26.4%	45.6%	30.0%	46.3%	28.2%	43.4%
社会環境学科(学部)	61.1%	64.0%	41.0%	46.4%	62.1%	68.5%	44.8%	55.4%	48.3%	58.1%
教養力育成科目(2019年度から)	46.6%	58.1%	36.4%	52.0%	35.2%	57.5%	35.6%	62.6%	25.4%	34.4%
合計	45.3%	53.9%	34.1%	46.5%	36.0%	52.9%	31.9%	48.4%	34.6%	46.3%

### 3.2 教員コメント入力

教員コメント入力率は前期 64.0%，後期 57.3%であった。学生から自由記述で寄せられる意見や改善要求などに対する教員からの回答，授業の総

【表 3 学部学科別教員コメント入力率】

学部名	R3後期	R3前期	R2後期	R2前期	R1後期	R1前期	H30後期	H30前期	H29後期	H29前期
電子情報工学科	71.2%	64.7%	67.3%	53.9%	49.1%	67.9%	49.3%	47.8%	44.6%	52.8%
生命環境化学科	52.9%	57.1%	76.5%	77.2%	62.0%	59.3%	21.7%	36.1%	42.0%	56.7%
知能機械工学科	62.3%	70.2%	60.0%	62.8%	51.5%	79.6%	45.9%	52.4%	46.5%	64.6%
電気工学科	50.0%	42.4%	44.7%	50.9%	58.0%	66.1%	33.8%	48.6%	45.7%	62.2%
工学部計	59.4%	57.8%	62.4%	61.5%	54.8%	67.5%	38.1%	46.0%	44.8%	58.8%
情報工学科	73.0%	77.2%	86.7%	80.5%	72.6%	76.3%	58.0%	72.1%	57.3%	73.3%
情報通信工学科	64.6%	81.8%	71.1%	83.6%	75.6%	83.3%	69.0%	77.8%	74.7%	80.0%
情報システム工学科	37.2%	72.0%	69.1%	52.0%	46.7%	68.0%	53.5%	58.2%	62.0%	62.2%
システムマネジメント学科	54.1%	67.4%	57.5%	72.3%	58.5%	53.2%	52.7%	57.1%	56.1%	58.7%
情報工学部計	59.2%	75.2%	72.7%	73.4%	64.3%	71.4%	58.3%	67.3%	62.2%	69.1%
社会環境学科(学部)	46.0%	47.6%	51.4%	58.4%	67.5%	63.0%	44.8%	28.0%	49.6%	67.5%
教養力育成科目(2019年度から)	57.6%	64.4%	74.9%	81.5%	45.4%	48.8%	28.1%	33.9%	16.0%	30.8%
合計	57.3%	64.0%	67.9%	70.8%	55.8%	61.4%	44.2%	49.5%	51.3%	63.5%

括を伝える言葉は，学生へのフィードバックとして重要であり，入力率の更なる向上が期待される。

### 4. 全体集計結果と解析

#### 4.1 設問 1

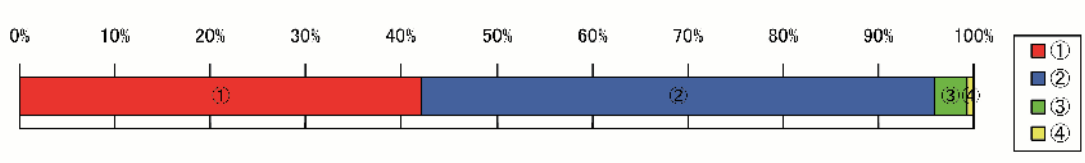
設問 1 (この授業を受講するにあたって，シラバスの内容を確認しましたか。)についての集計結果をみると，この問いに対して①十分に確認した，②ある程度確認したとの回答は前期 90.5%，後期 92.3%であり，いずれも前年同期 (R2 年度 前期 91.2%，後期 94.2%) を下回ったものの，一昨年同期 (R1 年度 前期 86.4%，後期 87.4%) を上回っており，直近 2 カ年の数値は好調である。

#### 4.2 設問 2

設問 2 (この授業について自主的かつ意欲をもって学習に取り組むことができましたか。)については①十分に，②ある程度「取り組んだ」との回答は前期 95.8%，後期 95.9%と高値を記録している。コロナ禍でオンライン授業が多かった前年同期 (R2 年度 前期 94.9%，後期 96.4%) と比較しても大きな変化はなく，また，直近 5 年をみても 90%を上回る値で安定しており，授業への取り組み姿勢は継続して前向きであるとみられる。

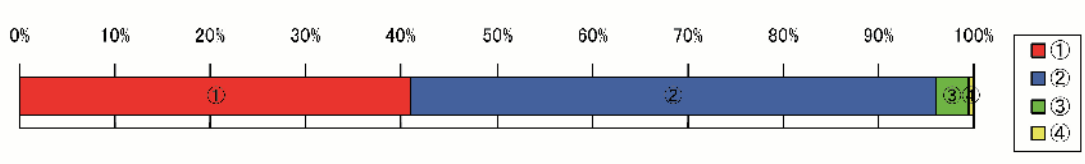
2. この授業において自主的かつ意欲をもって学習に取り組むことができましたか。

①充分に取り組んだ( 8,248人 42% ) ②ある程度取り組んだ( 10,558人 53.8% ) ③あまり取り組んでいない( 675人 3.4% ) ④全く取り組んでいない( 138人 0.7% )



2. この授業において自主的かつ意欲をもって学習に取り組むことができましたか。

①充分に取り組んだ( 5,944人 40.9% ) ②ある程度取り組んだ( 7,993人 55% ) ③あまり取り組んでいない( 506人 3.4% ) ④全く取り組んでいない( 87人 0.5% )



【図 3 授業への取り組み姿勢】  
(上段：R3 前期 下段：R3 後期)

### 4.3 設問 4, 5

この2つの設問では、シラバスに示された「修得する知識・能力」(A~I)との関与度について、学生がどのように捉えたのかを測っている。

今年度は前期・後期で設問 4, 5 の選択肢 A~I の表記を表 4 の通り変更している。選択肢 A~I について、全学で統一されていた各要素の説明文が各学科の DP と一致していないとの指摘を受け、前期の授業アンケートでは、成績評価ガイドラインに合わせた要素表記に変更した。前期の回答結果では、A (多面的理解)・E (課題解決力) に大きな伸長がみられた一方、G (主体性)・H (実行性) に大きな減少がみられた。この変化について、選択肢が要素表記になったことにより、各要素の内容と学生の理解に齟齬が生じた可能性が要因としてあげられ、後期は選択肢の表記を再度変更し、要素と説明文を並列して表記することとした。しかしながら、後期も前期と同様に G (主体性)・H (実行性)・I (協働性) に大きな落ち込みがみら

れ、説明文の変更による影響の有無は確認されなかった。このことは、コロナ禍で対面授業が再開された後、コロナ禍前の AL 実施内容と異なる状況となっていることがひとつの要因として挙げられる。また、当該設問は最大3つしか選択することができないため、学生の印象に残りやすい要素に回答が集まることも考えられる。今後、設問内容を含む授業アンケートの設計を検討する必要がある。

### 4.4 設問 6

設問 6 (この授業の内容は全体として意義あるものでしたか。)は平均評価ポイントとして4点満点で集計している。全学の平均評価ポイントは、前期 3.47, 後期 3.45 であり、前年度と比較して前期 ▲0.02 ポイント、後期 0.02 ポイントとなった。

【表 4 設問 4, 5 の選択肢の表記変更 (左: 前期, 右: 後期)】

No	選択項目	No	選択項目
A	多面的理解	A	多面的理解: 地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養
B	社会的責任	B	社会的責任: 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、社会に対して負う責任の理解
C	数量的スキル・リテラシー	C	数量的スキル・リテラシー: 数学・自然科学(人文社会科学)の知識と応用能力
D	専門知識	D	専門知識: 当該分野において必要とされる専門知識とそれらを活用する能力
E	課題解決力	E	課題解決力: 科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するデザイン能力
F	コミュニケーション	F	コミュニケーション: 論理的な記述、口頭発表、討議等のコミュニケーション能力
G	主体性	G	主体性: 自主的、継続的に学習する能力
H	実行性	H	実行性: 与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力
I	協働性	I	協働性: チームで仕事をするための能力

【表 5 成長実感 (A~I) の経年変化】  
(H29 年度~R3 年度 2015 (H27) 年度を 100%として)

	2015前期	2016前期	2017前期	2018前期	2019前期	2020前期	2021前期	2015後期	2016後期	2017後期	2018後期	2019後期	2020後期	2021後期
回答人数	16,873	16,799	18,218	17,924	19,768	17,154	19,619	10,161	11,611	11,697	10,506	11,795	11,330	14,530
A比率	11.9%	12.5%	13.8%	13.6%	15.9%	14.2%	28.0%	12.8%	12.7%	11.9%	12.3%	14.0%	14.1%	22.9%
B比率	14.9%	16.1%	16.3%	16.2%	17.7%	16.5%	12.8%	17.2%	16.8%	15.7%	16.8%	17.9%	16.2%	16.9%
C比率	23.2%	23.9%	23.3%	25.2%	25.3%	27.4%	24.6%	24.2%	24.2%	24.6%	24.1%	25.4%	27.5%	30.7%
D比率	49.8%	49.8%	49.7%	49.9%	51.1%	58.6%	65.5%	51.8%	52.7%	54.7%	54.6%	53.8%	60.5%	61.8%
E比率	11.9%	11.4%	12.1%	12.2%	13.3%	11.9%	38.4%	12.6%	11.7%	12.9%	12.1%	13.6%	12.2%	31.0%
F比率	16.8%	17.7%	19.0%	18.8%	20.2%	17.7%	19.2%	16.1%	15.8%	17.0%	18.5%	19.7%	20.5%	19.9%
G比率	27.8%	29.0%	31.8%	31.4%	33.6%	40.5%	15.7%	28.5%	29.6%	29.8%	29.8%	31.8%	38.2%	24.4%
H比率	14.8%	14.7%	16.6%	17.5%	18.4%	20.5%	12.7%	13.7%	13.8%	14.2%	15.3%	17.5%	18.6%	11.8%
I比率	13.4%	12.6%	14.2%	15.6%	14.5%	7.7%	8.4%	11.4%	12.1%	12.1%	15.0%	14.8%	9.9%	10.6%

【表 6 学部・科目別授業の平均評価ポイント推移（点）】

	H29前期	H29後期	H30前期	H30後期	R1前期	R1後期	R2前期	R2後期	R3前期	前年同期差	R3後期	前年同期差
全学	3.33	3.29	3.35	3.32	3.37	3.36	3.45	3.47	3.47	0.02	3.45	-0.02
工学部	3.31	3.28	3.34	3.33	3.35	3.35	3.43	3.48	3.47	0.04	3.47	-0.01
情報工学部	3.3	3.24	3.36	3.3	3.37	3.35	3.53	3.45	3.49	-0.04	3.44	-0.01
社会環境学部	3.39	3.38	3.35	3.37	3.35	3.4	3.44	3.53	3.46	0.02	3.46	-0.07
専門科目	3.31	3.31	3.36	3.33	3.36	3.36	3.47	3.48	3.47	0	3.46	-0.02
教養科目	3.25	3.25	3.31	3.3	3.4	3.36	3.43	3.45	3.45	0.02	3.44	-0.01

## 5. 授業外学習時間について

### 5.1 設問 3

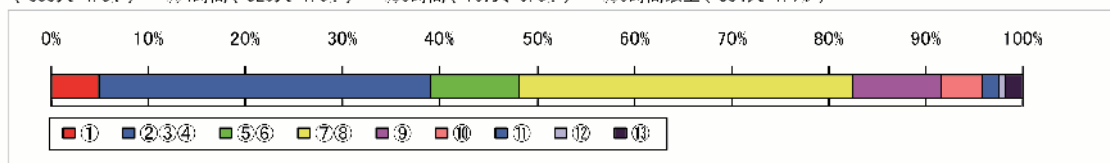
設問 3（この授業における授業以外での学習時間の合計は、1週間あたりどのぐらいですか。）は、AL 全学展開の狙いとしている「能動的学習態度の涵養」の達成度を測る指標となる。今年度は前期・後期ともに 66 分という結果になったが、これは遠

隔授業実施を背景に大きく伸長した R2 年度を除くと漸増している。

## 6. 授業アンケートの課題と今後の展望

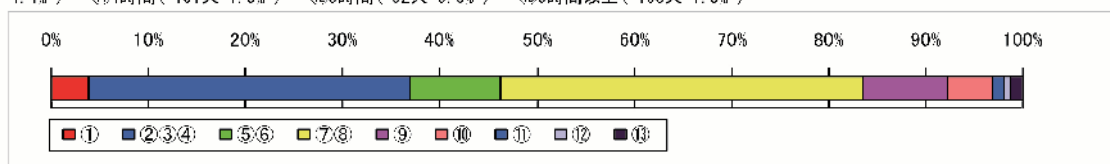
冒頭でも述べたように、授業アンケートの結果は、教育点検活動において、全学、学部・学科、授業そして学生レベルでの評価の根拠として活用

3. この授業科目における授業時間以外での学習時間（予習・復習、課題、自主学習等※）の合計は、1週間あたりどのぐらいでしたか  
 ①0分（969人 4.9%） ②10分（1,170人 5.9%） ③20分（1,485人 7.5%） ④30分（4,037人 20.5%） ⑤40分（1,165人 5.9%） ⑥50分（631人 3.2%） ⑦1時間（4,883人 24.8%） ⑧1時間30分（1,826人 9.3%） ⑨2時間（1,774人 9%） ⑩3時間（858人 4.3%） ⑪4時間（320人 1.6%） ⑫5時間（167人 0.8%） ⑬6時間以上（334人 1.7%）



平均学習時間： 66分

3. この授業科目における授業時間以外での学習時間（予習・復習、課題、自主学習等※）の合計は、1週間あたりどのぐらいでしたか  
 ①0分（559人 3.8%） ②10分（731人 5%） ③20分（1,005人 6.9%） ④30分（3,076人 21.1%） ⑤40分（844人 5.8%） ⑥50分（490人 3.3%） ⑦1時間（4,012人 27.6%） ⑧1時間30分（1,393人 9.5%） ⑨2時間（1,291人 8.8%） ⑩3時間（648人 4.4%） ⑪4時間（191人 1.3%） ⑫5時間（92人 0.6%） ⑬6時間以上（198人 1.3%）



平均学習時間： 66分

【図 4 授業外の学習時間】  
 （上段：R3 前期 下段：R3 後期）

【表 7 学部・科目別授業外学習時間推移（分）】

学科・科目別（分）	H29前期	H29後期	H30前期	H30後期	R1前期	R1後期	R2前期	R2後期	R3前期	R3後期
全学	53	56	54	51	64	63	89	77	66	66
工学部	56	64	63	64	75	77	91	88	79	79
情報工学部	54	58	60	55	75	70	95	88	81	78
社会環境学部	48	41	43	37	61	53	72	65	53	50
専門科目	59	64	61	58	73	68	89	83	74	72
教養科目	37	32	36	32	47	50	67	61	48	48

されており，その有効性を高めるためにもより多くの学生の真摯な回答を集めることが求められる。学生の回答率を上げるためには，回答された内容に対して教職員も真摯に向き合い，彼らにフィードバックを行うことが不可欠である。今後は，myFIT から直接回答の集計を確認する方法以外に，学生が手軽に確認できる回答結果まとめを作成し，タイムリーに公開していきたい。また，学生自身が自己の学びの姿勢を振り返り更なる成長に向けて活かすことも授業アンケートの重要な目的であるため，「学生レベル」のアセスメントが適うように，FIT-AIM と連動させるなどのシステム構築を今後検討していきたい。



◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ FD 速報 (No.626) '21.6.30◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

授業アンケートに関する先生方の工夫や気づきを広く全学に共有することを目的に、5名の先生方にインタビューをさせていただきました。

□-----□

① 授業アンケートの実施目的をどのように捉え、学生に伝えていますか。

- ・どのような授業の在り方が学生にマッチするのか試行錯誤する為に、学生自身の意見が大事であることを伝えている。
- ・「授業アンケートは授業の改善に繋げる為に使われており、皆さんの意見や要望を伝えることは、皆さんが思っている以上に大切なことである」旨を伝えている。
- ・学生が授業をどのように捉えているか、学生の目線を知り授業改善に繋げる為にも協力してほしいと伝えている。
- ・「授業は教員の為ではなく学生の為にあるもので、匿名の授業アンケートは意見や要望を伝えるチャンスのひとつである」旨を伝えている。
- ・アンケートの目的は、学生の満足度と理解度の確認、学生の日頃の取り組み状況の把握、および、授業改善のための意見・要望の収集と考えている。学生には授業改善のために意見を聞かせてほしいと伝えている。

② 回答率を高める為に工夫していることはありますか。

- ・未回答の学生は教員自身で確認することができる為、myFIT の掲示板を通じてアンケート回答期間中に2回程、回答を促すようにしている。特に試験期間中は学生もmyFITの確認を普段以上に意識している為、効果があるのではないかと。
- ・授業時間内で10分を目安に回答時間を設けている。
- ・早々に回答が終わった学生には「他の講義で未回答のアンケートがあれば、そちらも回答するように」と呼び掛けている。
- ・リアルタイムに回答率が確認できるためそれを学生に開示し、「みんなの回答率が〇〇%になるまで解散しないよ～」など声をかけながら回答を促している。
- ・学生自身が困っていることや分からないこと等を話してくれるように、日頃から学生たちとのコミュニケーションを意識している。
- ・回答期間の授業の中で繰り返しアナウンスをしている。
- ・特にオンライン講義の際は双方向性の確保を目的にmyFITのQ&A機能の利用を促したため、学生が回答する行為に慣れたことも考えられる。
- ・授業でmyFITの選択形式のテスト機能を使用していたが、授業アンケートの回答形式がそれと似ているため、結果として学生が形式に慣れ回答の抵抗感が少なくなった可能性もある。

- ・授業時間内で回答時間を設けている。PC 演習室での講義は問題ないが、講義室ではスマートフォンで回答させているため、たまに myFIT に入れない等のトラブルで回答できない学生もいる。

### ③ 学生コメントから得た気づきはありますか。

- ・学生たちの声を吸い上げることは、直接的な授業改善に繋がるものもそうでないものも、彼らの考えを理解する為に大切であり、回答時間を取ることは無駄ではないと考えている。
- ・文字の書き方や大きさなど見やすい板書になるように改善に繋げている。一方で、そのような指摘は授業毎に伝えてくれた方がすぐに改善できるのと思うこともあり、日頃からの学生とのコミュニケーションが大切だと感じる。
- ・〇〇についてよりかみ砕いた資料に変更しよう等、本学の学生に合わせた授業資料の作成に活かしている。
- ・学習相談コーナーを利用して疑問点を解決し、積極的な学びの姿勢を身につけている学生のコментарが複数見受けられる。これらのコメントから学習相談コーナーの重要性を確認できる。一方で、理解できていないとコメントする学生が、学習相談コーナーを利用するなどの努力をしている学生なのか、そうでない学生なのか、授業アンケートから分からないので、そういう学生の対応が困難である。
- ・グループ発表を取り入れることで学生が主体的に学び議論する AL を促しているが、その姿勢が身につけていることが分かる。学生たちがコメント内で、「自主的に発表内容を準備することで、人前で話す力、資料を分かりやすくまとめる力が身についた」と振り返っている。
- ・昨年度はオンライン授業のメリットデメリットがそれぞれ確認できた。
- ・スライドの文字や図の大きさ、ノートテイクの時間など学生の声を参考にしながら授業に反映している。

本インタビューは、生命環境化学科 松山先生、知能機械工学科 下川先生、電気工学科 田島先生、情報通信工学科 西田先生、社会環境学科 藤井先生、以上5名の先生方にご協力頂きました。お忙しい中ありがとうございました。